

令和5年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和6年1月18日

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
自ら学ぶ力の育成に努める 「わかる、楽しい授業」を基盤に、	学ぶ意欲の育成	「地域の人・もの・こと」を教材に取り入れ、問題解決の成就感を味わえるような問題解決学習の実践を図る	B	B	栽培活動などの体験学習は地域の方の協力もあり定着している。問題解決学習に意欲的に取り組む様子が見られた。学習後、子どもが自ら実践に結びつけ、さらに成就感を味わえるよう教師が働きかけたい。	A	体験などを通して見通しのもてる学習は、子どもの意欲や理解が高まってよい。高学年は、教科担任制で専門の教師に教えてもらえるとうよい。	学校だけでなく、家庭と連携しながら学びを進めていくよう努力したい。 規模的に難しい部分があるが、教員の専門教科をいかし、できる範囲で交換授業を取り入れたい。
	学び方の習得	発達段階に応じ、自ら学ぶ力を支える学び方を身につけさせる	B					
心豊かな子を育てる教育活動を推進する	自己有用感の向上	子どもの居場所を確保し、認め合う場を大切にして、周りから認められている自分を感じさせる	A	B	道徳の授業で自己有用感を向上させる学習に積極的に取り組むことができた。子どもたちは、家庭・地域から大切にされていることを実感していると感じる。 高学年が挨拶する姿を見て、一緒に挨拶をする低学年が増えた。自分からすすんでできるよう、さらに意識を高めていきたい。	A	縦割り活動により、上級生はまとめる力がつき、下級生は上級生の活動に憧れをもち、よいつながりができている。 「コミュニケーションは挨拶から」、学校・家庭で日々の挨拶を大事にしていきたい。	賀茂の特性を生かし、これからも縦割り活動で子どもたちを育てていく。道徳を中心に、あらゆる機会をとらえて心を育てていくよう努力する。 挨拶ができる子をめざし、特活部を中心に子どもへの働きかけ方を工夫していく。
	生活習慣の基本、挨拶意識の向上	「いちばん挨拶ができる学校」をキーワードに、子ども主体の挨拶運動を図る	B					
規則正しい生活習慣を養い、心身ともにたくましい子の育成に努める	健康で丈夫な体作りへの意識の向上	自分の健康に関心をもち、日常生活を振り返り改善できる子どもを育てる	A	A	今年度もスポーツトレーナーを招き、学年のめあてに合わせた運動方法を学んだ。授業のはじめの「賀茂つ子ドリル」や休み時間の縄跳びチャレンジも年間通して取り組んでおり、子どもたちの向上意欲が定着してきた。	A	専門の方に教えていただくことはとてもよい。発達段階を踏まえ、系統立てて動きを教えてほしい。 子どもが縄跳びに継続して取り組んでおり、家庭で見ているでもできる技が年々増えている。	体力の向上をめざし、来年度も取り組みを継続させていく。 健康面においても保健調査を利用し、ゲームやSNSのやり過ぎ防止について、家庭と連携し対策を講じていく。
	バランスのとれた基本的な体力の育成	縄跳び活動、体力アップトレーニングなどの総合的な体力向上をめざす活動を、年間を通して取り組む	A					
安心して学ぶことができる、通わせることができる学校づくりを推進する	職員の安全に対する意識の向上	「安全が最優先」を肝に銘じ、リスクマネジメントとクライシスマネジメントの視点から、安全管理体制を充実させる	A	A	子どもたちへの事前指導をしっかりと行い、より臨場感のある避難訓練を実施した。教職員も最も安全な手段で児童を避難させるよう意識した。 協働して学習や行事を行うことでゆとりができ休み時間に子どもと遊ぶ等、ふれ合う時間を大切にしている教師が増えた。	A	子どもの引き渡しについて、学校は、家庭と個々に共通理解をしておくとうよい。 時間等の物理的多忙化解消だけでなく、精神的にも多忙化解消ができるとよい。	安全意識がより高まるよう、来年度も取り組みを続けていく。引き渡しについては、年度当初に家庭との確認を確実に実行。気象情報を確認し、少しでも早く対応を家庭に連絡するよう努める。
	教職員の多忙化削減	全職員協働での教育活動の推進、タイムマネジメント能力の向上をめざす	A					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】